

F 7 小中学校家庭科の被服領域における実験方法の検討(Ⅳ) 通気性について  
 愛知教育大 日下部 信幸

目的: 学校教育で重視されている被服材料の性質は吸湿, 吸水, 保温, 通気, 洗濯性などであるが, これらをわかりやすく理解させるための実験方法について通気性以外は先に報告したので, 本報では観察的にむしろ通気性の実験方法を提案する。

方法: 通気性実験方法の現況とその改良, 通気性の官能検査, 新しい測定器の開発。

結果: 現在までに報告されている通気性測定を分類すると①息吹き法, ②風当て法, ③OHP法(光透過法), ④吹き流し法(縹香法), ⑤煙出し法(いすも仮紙)などであるが, これらの方法は再現性, 科学性, 定量化などの面で適当とはいえない。

これらのうち①は紙片の代わりに発泡スチロール, ④は1図の風力計法に改良すれば量的に測定できる。3図は新しく提案する測定方法で(ビニール袋法), 布面を通った空気をビニール袋に一定量を集め, その時間を測るもので, JISのフラジール型法と高い相関が得られ, 観察的にむしろれている。

1) 日本家政学会第33回論文発表要旨 p223, 家庭科教育誌, 23号  
 2) 繊維製品消費科学会50年年次大会発表要旨 111, 実用新案出願中  
 本研究は昭和57年度愛知教育大学家政学卒業研究(大島, 鈴木, 西村, 塚中の共同研究)をまとめたものである。

